

川越市教育委員会第16回定例会会議録

- 1 会議の場所 川越市教育委員会 教育委員会室
- 2 開 会 平成30年3月23日 午後3時30分
- 3 閉 会 平成30年3月23日 午後4時
- 4 教育長並びに出席した委員 新保正俊、梶川牧子、長谷川 均、長井良憲、黒田弘美
- 5 欠席委員 なし
- 6 教育長の職務を行った者 教育長新保正俊
- 7 説明のため出席した者 教育総務部長中沢雅生、学校教育部長福島正美、教育総務部副部長兼文化財保護課長下 薫、学校教育部副部長兼教育指導課長中野浩義、教育総務部参事兼中央公民館長上野 正、教育総務部参事兼博物館長田中 信、学校教育部参事兼学校管理課長内野博紀、学校教育部参事兼教育センター所長中村健二、教育総務課長長谷正昭、教育財務課長桜井一男、地域教育支援課長福井康司、中央図書館長内田修弘、学校給食課長岸野泰之、市立川越高等学校事務長松本陽介

8 前回会議録の承認

平成29年度第11回定例会会議録を承認した。

なお、平成29年度第12回定例会会議録、第13回定例会会議録、第14回臨時会会議録及び第15回定例会会議録については、現在、調整中であり、次回会議において承認することになった。

9 議題及び議事の概要

日程第1議案第50号 川越市教育委員会職員人事について

(非公開)

10 報告事項

(1) 平成30年度版 川越市小・中学生学力向上プランについて

副部長兼教育指導課長

川越市小・中学生学力向上プランは、策定から5年目を迎える。本プランを策定した趣旨は、本市の学校と教育委員会が目指す方向性を明確にし、市全体の教育力を高めるためである。また、本プランが目指す児童像は、「志を高くもち、自ら学び考え行動する子ども」である。これを踏まえて、児童生徒の学力向上に向けた、教育委員会としての施策等を掲載している。

平成29年3月に新学習指導要領が告示され、何ができるようになるか、という観点から学びの姿を考え、どのように学ぶかという視点を重視し、新たな形態の学習指導の推進を図るとともに、学習環境の整備充実を進めることで、子どもたちの

確かな学びを保障していく。

また、学校内外において、家庭・地域社会と連携し、様々な体験が得られる機会を充実し、自己肯定感や社会性、規範意識を醸成し、子どもたち自身の志や意欲を高める教育を推進する。

内容であるが、本プランの目標である「子どもたち一人一人の学力向上」という基本的な部分に大きな変更はない。新たな視点としては、学力向上のキーワード「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」を掲げたこと、学力向上における課題解決に向けた重点として、「授業と家庭学習のサイクルプランの確立」を掲げた点である。委嘱研究校の要点や校種間連携教育の更なる推進、市内小中学校における学力向上の主な取組例、モデル授業プランを踏まえた検証授業を掲載するとともに、本市の家庭学習補助プリント「ときもドリル」を示し、教職員にとって参考となる部分を増やし作成している。

今後は、本プランを4月の定例校長会で説明し、各学校での浸透を依頼するとともに、本市教育委員会が実施する指導訪問や各種研修会において活用することで、周知、徹底を図っていく。このプランを1つの指標として、本市教育委員会と各学校が「知・徳・体」のバランスのとれた教育活動を体系的に展開し、本市の教育活動の一層の充実を図っていく。

教育長

昨年度からの変更点を確認したい。

副部長兼教育指導課長

「主体的・対話的で、深い学び」が新学習指導要領のキーワードとなっている。その実現に向けた授業改善という視点で全体的に構成し直した点が大きな変更点の1つである。もう1点は、児童生徒の家庭学習をより充実させるため授業と家庭学習のサイクルプランを確立する、とした点である。更に、家庭学習や自習を支援する「ときもドリル」を作成した点が大きな変更点である。

教育長

昨年度の学力向上プランについて、委員から「家庭の力」の取組が少ないと指摘があったが、その部分を今回の変更点である、授業と家庭学習のサイクルプランの確立を示すことで補ったということか確認したい。

副部長兼教育指導課長

「家庭の力」の内容は昨年度から変更はないが、資料として「ときもドリル」や家庭学習ノートの取組事例などを示し、家庭でも活用できる事例を掲載している。

教育長

「学校の力」、「教師の力」、「地域の力」、「家庭の力」として具体的な取組を掲載しているが、教員にこれらの取組を示すことでどのような効果があるのか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

施策を理解する、その中で重点的なものを理解する、という効果が考えられる。例えば、新学習指導要領への移行期に重点的に取組まなければならない施策を理解していれば、研究授業や研修会等に臨む上で、教員の意識も変わると考える。

委員

プランとしては良くできているが、このプランを実践することで、いつまでにどのような効果を出すのか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

平成29年度の埼玉県学力・学習状況調査において、本市の児童生徒については平均点は低い、一人ひとりの伸び率は高く、この点は埼玉県から評価されている。その伸びについて注目し、学校別、教科別、学年別、クラス別の指導状況など、分析を進めていく予定である。現時点ではいつまでにどのような効果を出すという具体的なものは設定していない。

委員

結果にこだわってもらいたい。目標を達成するためのプランであり、いつまでにどのような結果を出すのか定まっていなければプランとは言えない。どんなに良いプランができていても、結果が出ないと意味がない。長期プランであるとすれば、本プランが良いが、現時点で課題となっているのは、全国学力・学習状況調査において、本市は全国平均以下であるということである。単年度の短期プランを策定し、この課題を解決する必要があると考えるが、その点について伺いたい。

副部長兼教育指導課長

全国及び埼玉県の学力・学習状況調査の結果については、課題であると認識し、重く受け止めている。この課題の解決に向けては、学校間格差、平均点が低い学校における二極化、これらの傾向を少しでも減らすことが重要であると考えている。その対策として、モデル授業プランに基づいた、きめ細かく丁寧な授業の継続が必要である。

委員

緊急の課題と受け止め、短期プランの策定を検討してもらいたい。

委員

成果を出すためには、プランも重要であるが、実際に動く教員が重要である。組織として動くことはもちろんであるが、校長をはじめ個々の職員の熱意やモチベーションがなければ、成果はあがらないと考えるが、その点について事務局の考えを伺いたい。

副部長兼教育指導課長

まず、本プランを個々の教員まで浸透させることが重要であると考えている。今年度、学力向上研究委員会の委員が、作成したモデル授業プランで自ら授業を行い、

全校に呼びかけ授業をみてもらう取組をはじめたところである。本プランは配布する職員の数だけ印刷するが、活用してもらわないと意味がないため、学校指導訪問の際に、全校で確認する。また、本市教育委員会で委嘱する研究委嘱校で活用してもらうなど、周知を図っていく。

委員

一般の教員まで浸透していることをチェックする必要がある。具体的な確認方法はあるか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

直接見ることのできる機会としては学校指導訪問、研究委嘱授業の発表がある。他には、教員の人事評価のなかに、学習指導という項目があるので、活用状況について確認することができる。

委員

本市の子どもたちの現状として、「課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という問いに対し、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた子どもは全国と本市を比較すると、本市の方が、意識が高い。意識は高いが、結果に結びつかないのは何故か伺いたい。

副部長兼教育指導課長

主体的、対話的授業に取り組んでいるため、子どもたちの意識が高まってきたと考える。結果に現れるには時間がかかるのではないかと考えている。

参事兼学校管理課長

考えさせる授業に変わってきており、子どもたちにとって授業そのものは楽しくなっているが、身に付けなければならない知識や技能がきちんと身に付いているかというところにかい離があり、結果に結びつかない状況であると考えます。

委員

目標に近づくためには教師の力は不可欠である。教師を元気にしないと、子どもが元気にならない。教師を元気にする取組が本プランの中には見受けられないが、負担軽減に取り組む姿勢を示す必要はないのか確認したい。

参事兼学校管理課長

教員の負担軽減については、喫緊の課題であると認識している。来年度に向け、検討する。

委員

「ときもドリル」については、家庭学習の面でいいものができた、と考える。学校の自主性に任せるのか、徹底して学校において取組ませるのか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

「ときもドリル」の活用の仕方については、学校の状況に合わせて使ってもらうこととしている。埼玉県が作成している「コバトン問題集」と併用して、宿題や自

習時間に活用してもらおう。

委員

家庭学習を充実させるためにも、ある程度、詰め込む姿勢も必要ではないかと考えるが、その点について伺いたい。

副部長兼教育指導課長

家庭学習の取り組ませ方や時間の確保の仕方について、各家庭で異なるため、そこが課題であると考えている。。

委員

小学校の算数でつまずき、不登校になった事例について聞いたことがある。小学校の算数における少人数指導の状況について伺いたい。

副部長兼教育指導課長

小学校全校に少人数加配で教員が付いている。多くは3、4年生のクラスで実施され1学級2名の教員で指導している。算数のつまずきについて、「ときもドリル」は、例えば5年生であっても3年生のドリルに取り組むことができる。学年を超えて使えるため、つまずきの解消にも有効であると考えている。

教育長

「ときもドリル」の構成を確認したい。また、各家庭からパソコン等で取り込めるのかについても確認したい。

副部長兼教育指導課長

算数、数学であれば計算問題が、国語は漢字が主となっている。市ホームページには掲載していないが、今後、掲載が可能か確認して、検討したい。

委員

基礎的なことの積み重ね、繰り返しが重要であると考え。「ときもドリル」について、各科目の分量はどのくらいか伺いたい。

副部長兼教育指導課長

教科によって異なるが、1単元当たり12ページ前後である。今後、少しずつ増やしていく。

委員

各家庭でダウンロードできるようにするのもいいが、そうした環境のない家庭もあるため、学校で一斉に取り組むことが必要であると考え。

委員

本プランに学力向上PDCAサイクルの確立とあるが、そのようなモデル授業プランに基づく授業を行っているかどうか、また行った結果、成果があったかどうかの確認はどのように行うのか、伺いたい。

副部長兼教育指導課長

学校において、実際にモデル授業プランを踏まえた授業になっているかどうか、

学校指導訪問の際に確認は可能であると考えている。その後の成果については、次年度以降の学力・学習状況調査の結果を確認する。

教育長

来年度以降、長期プラン、短期プランについて検討してもらいたい。プランの評価、改善についても適切に行っていく。また、学校における「ときもドリル」の積極的な活用を促すとともに、効果的な活用方法について学校に示してもらいたい。

委員

学力向上について、学校ごとの目標などはあるのか確認したい。また、本市の児童生徒の伸び率について評価されているという話があったが、特に伸びている学校を確認したい。更に、学力向上研究委員会の構成について伺いたい。

副部長兼教育指導課長

前年度の学力・学習状況調査の分析を踏まえて、各学校から重点課題、課題が生じている理由、学力向上の重点取組を提出してもらっている。目標設定した上で、効果の検証、今後の見直しについても記載されているものである。その成果があって、平成27年度から同28年度にかけての伸び率で埼玉県から注目されたのは高階北小学校である。

また、平成29年度の学力向上研究委員会の構成についてであるが、各教科1名は管理職、教科ごとに3名から4名の教諭で構成されている。人数は、小学校は5教科で計20名、中学校も5教科で計20名である。

(2) 市内中学校発生のいじめ事案に関する報告書について

(非公開)

1.1 その他

- (1) 議事に先立ち教育長から、議案第50号は人事に関する議案であり、また、報告事項(1)は個人に関する情報にあたることから、これらの審議に係る会議を公開しないこととする動議が提出され、全出席委員がこの動議に賛成し、当該審議については非公開として取扱うこととし、議案第50号については関係理事者（教育総務部長、学校教育部長、教育総務課長）のみで審議することに決定した。
- (2) 議案第50号は、人事に関する案件であることから審議順を変更し、その他終了後に審議することについて、各委員承認し日程を変更することになった。
- (3) 会議録署名委員として、梶川教育長職務代理者、長井委員が指名された。
- (4) 次回教育委員会は、平成30年4月23日（月）午前10時開催に決定した。